

こころを活かす ドールセラピー

そっと抱いてみてください。
赤ちゃんのような感触に想像力が広がります。
“泣いたり笑ったり”に笑顔が集まります。
ドールセラピーは、愛するところに語りかける
世代を超えたコミュニケーションです。

ドールセラピーの「たあたん」シリーズ

手を握ると泣き声、
足に触ると笑い声
を発します。

泣き笑い
たあたん
Cry-Laugh Tartan

Healing Baby
たあたん
ヒーリングベイビー

2001年に誕生
愛され続けて
います。



泣き笑いたあたん、たあたんのお買い求めは
ウェル・プラネット オンラインショップにお越しください。

オンラインショップの入口は → → → こちらへ

★ 新 誕生!

「泣き笑いたあたん」は、こんな赤ちゃん人形です。

「たあたん」シリーズは、ダイバーショナルセラピー(※)の一環として実践されるドールセラピーのために、表情はもちろん体形や重さ、感触からも本当の赤ちゃんのような愛しさを感じていただけるように工夫されています。「泣き笑いたあたん」には、泣き声、笑い声という新たな要素が加わりました。その声は実際の赤ちゃんの声からとられたもので、さらに想像性や楽しさ、会話を広げていただけるでしょう。「泣き笑いたあたん」には繊細な機器が内蔵されていますので、優しく扱ってください。



① 使いはじめるときは、まず背中に内蔵されている電池ボックスのスイッチをオンにしてください。

② 手のプラスチック部分を軽く握ると、泣き声を発します。

③ 足のプラスチック部分を軽く握ると、笑い声を発します。

④ 3分ほど声を出さない状態が続くと、スリープモード(手足を握っても音声が作動しない状態)になります。

⑤ この時は、服の上からお腹のボタンを押すと、再び泣いたり笑ったりするようになります。



⑥ 長時間、使わない時は背中のスイッチを切ってください。

⑦ 服と帽子は着脱できます。50~70サイズのベビー服やTシャツなどに着せ替えることもできます。

⑧ 写真のような甚平も作っていただけます。型紙をご希望の方は、「82円切手」を同封のうえ、有限会社ウェル・プラネットまで、お申し込みください。折り返し郵送させていただきます。



この冊子の編集にあたっては、各ダイバーショナルセラピー実施法人の皆様にご協力をいただきました。ありがとうございます。

※ダイバーショナルセラピー／Diversional Therapy／DTとは、

オーストラリアやニュージーランドで高齢者や、認知症や障がいを伴う方のために専門職として実践されている全人的ケアです。DTでは、その人が心から楽しく、意味のある生活を実感できるように、「レジャー(楽しさ)」「ライフスタイル(自分らしさ)」「チョイス(選択と自己決定)、コミュニケーション(ふれあいと社会性)に注目、個人のアセスメントを

ベースに一人ひとりに最も適したDTプログラムを計画的に実践していきます。DTプログラムにはクライアントと職員が1対1で行う「個別プログラム」と、仲間と一緒に楽しみ社会性を支援するための「グループプログラム」があります。「たあたん」は、そのどちらにも活用していただけるDTグッズです。

ダイバーショナルセラピーについてのお問い合わせは、NPO法人日本ダイバーショナルセラピー協会まで。

〒530-0037 大阪市北区松ヶ枝町6-17-702 ☎06-6882-0360 URL <http://www.dtaj.or.jp>

参考文献：『施設ケアの新発想!オーストラリアのプロメソッド ダイバーショナルセラピー』芹澤隆子著(三輪書店)

★ドールセラピーとは？

「愛するところ」へのアプローチ

赤ちゃんに接するとき、人々は慈しみや深い愛情、世話をしたり守りたいという母性的な気持ちを感じます。そして思わず微笑みかけたり、手を差しのべたりします。もちろん個人差はありますが、多くの人が抱くそのような自然な感情に働きかけ、高齢の認知症や障がいを伴う人 (elderly people with dementia or disorder) が「愛する対象」としての赤ちゃん人形と身近に接することで、喜びや自信を取り戻そうとするアプローチを「ドールセラピー」と呼びます。

ドールセラピーは、オランダで認知症ケアプログラムの一つとして始められたといわれ、オーストラリアやニュージーランドではダイバージョナルセラピー / Diversional Therapy (※) の一環として実践されています。

愛する対象として生まれた「たあたん」

「たあたん」はそんなドールセラピーを日本でも…と、ダイバージョナルセラピー実践者・芹澤によって考案された赤ちゃん人形です。「たあたん」には高齢者や認知症を伴う人々に愛されるために、さまざまな工夫が凝らされています。

- ☆愛らしく、親しみ深い表情
- ☆赤ちゃんの抱き心地を感じさせる体形
- ☆存在感のある重さとバランス
- ☆服のボタンのかけ外し、よだれかけの紐結びなどの手作業



「たあたん」がいると、会話ははずみます。グループホームのアイドル的存在にも！ (グループホームひめゆり / 沖縄)



愛する対象として…「たあたん」はオーストラリアでも喜ばれています

そして、2016年12月、フランスベッドとの共同プロジェクトによって、新しい妹「泣き笑いたあたん」が誕生したのです！その名の通り、泣いたり笑ったりして、私たちの想像力をかきたて、笑顔とコミュニケーションを広げてくれます。

★「たあたん」シリーズの有効な活用法

高齢者や認知症を伴う人の “意味のある生活”のため

高齢者や認知症を伴う人にとって、最も苦痛なことは「退屈・孤立・無力感」だといわれています。また介護されるという受け身の生活を強いられることで、社会人として大人としての尊厳が次第に失われていきます。そんな時、本物の赤ちゃんを感じさせるような「たあたん」と出会うことによって「愛したい」「世話をしやりたい」というポジティブな感情や行動を取り戻し、役割をもって意味のある生活をおくることにもつながります。素敵な出会いのきっかけを作ってみてください。施設や家庭に“赤ちゃんを受け入れる環境”を作ってみてください。ベビーベッドやベビーチェアなどを設置して、施設にベビールームやベビーコーナーを作るのもその一つです。

また、「たあたん」を活用して生活感を取り戻すリハビリテーションや意味(目的)のあるアクティビティにも結び付きます(活用事例を参照)。特に認知症を伴う方には、赤ちゃんのような抱き心地や感触から、本物の赤ちゃんを想起し、赤ちゃんに由来する思い出を回想する



職員の持ち寄りや工夫によって、認知症治療病棟に設置されたベビールーム(橋本病院/香川)

など想像力を刺激します。「泣き笑いたあたん」の場合は、笑い声や泣き声からさらに想像が広がりますので、「赤ちゃんはどんな時に泣くの?」「泣き方で何を言いたいのか分かる?」「泣いている赤ちゃんの機嫌を直すには?」「笑ったわ…何が嬉しいのかしら?」など会話を増やしていきましょう。

「たあたん」を活用した実践例

「たあたん」を巡って、さまざまなアクティビティやプログラムが実践されています。その中からいくつかをご紹介します。

★**手芸クラブ**：「たあたん」のよだれかけや簡単な服を作る。冬が近づけば、毛糸で帽子や靴下などを編むことで季節感を感じたりアクティビティに目的ができます。



デイサービスの裁縫クラブでは、さまざまな端切れを組み合わせ、たあたんのよだれかけ作り。バザーで人気を呼びました(グループホームまぜの里/徳島)

★コミュニケーション：赤ちゃんや子育てを巡る習わしや話題による会話を楽しんだり、子守唄や幼児の頃の歌には地域性もあって面白い発見や回想につながります。この時、さまざまな赤ちゃんグッズを用意すると効果的です。



「可愛いねえ」。じっと見つめながら、若い職員とも気持ちを通う。赤ちゃんについて教える一幕も（グループホームまげの里／徳島）

★家事として：「たあたん」を常に清潔に保つためにも、服を洗濯したり干したりしましょう。これも生活実感やリハビリテーションの一つになります。

★職員や家族によって不要になったベビーウエアなどを持ち寄ることで、着替えの手作業やコミュニケーションを楽しむことができます。ベビー筆筒やハイチェアなどがあると、会話やアクティビティの幅が広がります。たとえば介護老人保健施設ユウカリ優都苑（千葉）で可愛がられている「たあたん」。ハイチェアに座ると入居者さんと目線が合いやすく、親しまれています。着ている着物は職員が見つけた50年以上前のもの。回想にもつながります。



★夜の不穏や徘徊のある方で、「たあたん」と一緒に寝ることで落ち着かれることもあります。この時も、一緒に子守唄を歌ったり静かに話し合ったりといったやさしい関わりを大切にしましょう

また著書『ダイバーショナルセラピー』（三輪書店）では、精神科病棟でのドールセラピーについて、次のような事例を紹介しています。

周囲とトラブルが絶えないYさん。「彼女には面倒を見たり可愛がる対象が必要なのでは？」と考えた看護師長が、「たあたん」をそばに置いてみると、まるで別人のように穏やかに「たあたん」に語りかけ、得意の裁縫の腕を活かして「たあたん」の着物を縫い、周囲の人とも人形を介して会話するようになった。そこで精神科の主治医と相談し、向精神薬の投与を少しずつ減らし、3か月でゼロにしました。その後10年間、Yさんは最期までほとんど薬を飲まずに穏やかに暮らしました。（抜粋）

このように、医師、看護師と介護職（家庭においては家族）が連携してドールセラピーをベースとした非薬物療法による成果を見ることも可能なのです。



和裁が得意だったYさんは、「たあたん」の着物を縫うことでこころの平穏と自信を取り戻し、最期までおだやかな人生を送られた（宗近病院／広島）

大切なのはコミュニケーション！ 「泣き笑いたあたん」の役割



「泣き笑いたあたん」はベビーウエアの生地がペロア調になり、より心地よい感触に！

孤立感に陥りやすい高齢者にとって「たあたん」は、よきパートナーであり、家族や施設の職員にとっては、よきコミュニケーションツールともなります。赤ちゃん人形の存在そのものが優しい雰囲気を作り出してくれますし、赤ちゃんにちな

んだ共通の思い出話もたくさんあります。ただ、会話のきっかけがつかめなかったり、話題に行き詰ることもあるでしょう。

そんな時、「泣き笑いたあたん」の“泣き笑い機能”が役に立ちます。泣き声と笑い声を自由に選べますので、その場の雰囲気や対象者の気分、感情によって使い分けことができます。また、赤ちゃん人形が泣いたり笑ったりするというサプライズに職員や家族と認知症を伴う方が思わず一緒に笑ったり、話しかけたり…。このように介護する人、される人ではなく“同じ気持ち（対等）”になれるというのは、実はドールセラピーの大切な目的でもあります。「泣き笑いたあたん」の役割は認知症を伴う人のコミュニケーションを広げることでもあるのです。

一方、重症で寝たきりの方や終末期の方が、ベッドで「New たあたん」と一緒に寝ていることで安らぎや誰かと一緒にいるといった安堵感を感じられることもあり、その光景にスタッフもやさしい気持ちで話しかけられるといいます。

このように、「たあたん」シリーズは、それぞれの役割をもってアクティビティから終末期ケアまで幅広く活用されています。



ベッドですと「たあたん」を抱いている入居者。寝ていても誰かと一緒にいる安堵感だろうか…(グループホームひめゆり/沖繩)

一人ひとりの個性や感性を尊重して

しかし、このようなドールセラピーはすべての人に当てはまるわけではないことに留意しなければなりません。赤ちゃんに対する感情や経験には個人差があります。赤ちゃん人形に興味を示さない人に抱かせようとするなど、無理にすすめることは避けましょう。

また、認知症を伴う方にとっては、赤ちゃん人形が本当の赤ちゃんである場合もありますし、赤ちゃんと人形の間を認識的に揺れ動いている場合もあります。その人のその時の気分や、感性を尊重し、その人が今どのような思っているのか、どのような感情を抱いているかをよく観察しながら、共感をもって寄り添うことが大切です。そして、職員や家族、周囲の人々も赤ちゃん人形を大切な存在として優しく扱うことを忘れないでください。

「泣き笑いたあたん」&「New たあたん」が、皆様の生活に笑顔とコミュニケーションを広げる一助となれば、この上ない喜びです。
(文責：芹澤隆子)

Doll Therapy for Positive Approach

Give this doll a little cuddle.

The sensation of cuddling a baby will open up your imagination.

Smiling people will gather around the little angel who laughs and cries.

Doll Therapy is a kind of communication tool regardless of generation.

Tartan doll series was created for Doll Therapy.



"Cry-Laugh Tartan"

She laughs when you touch her foot and cries when you touch her hand.



Tartan doll (silent)

Specifications of Tartan Doll series

- Weight : about 1320g
- Height : about 47cm
- The body is made of material with filling. It is just the right softness and weight.
- Head, hands and feet : made by soft plastic:
- Joints of arms and legs : moveable
- Sleeping eye : The doll's eyes close when lying down.
- You can hear Cry-Laugh Tartan laugh and cry when you touch the doll's hands and feet.

★What is Doll Therapy?

The approach to "a loving heart"

When interacting with a baby, maternal instincts are aroused including tenderness,

a deep affection and a desire to protect the baby. People spontaneously smile at a baby and reach out towards it. Many people have these natural feelings although of course, it varies between individuals. These feelings can become the trigger for elderly people with dementia or a disorder to regain happiness and confidence by having contact with a baby doll that becomes the object of their affection. This approach is called Doll Therapy.

Doll Therapy is said to have its origin in the Netherlands as a part of care programs for people with dementia. In Australia and New Zealand, it is carried out as a part of "Diversional Therapy."

Tartan was created to become an object of affection

Takako Serizawa, a practitioner of Diversional Therapy, developed the doll named "Tartan" in order to carry out Doll Therapy in Japan in 2001. Tartan has been specially designed so that elderly people and people with dementia will love the doll. In 2016, a collaborative project between Serizawa and France Bed Co., Ltd, saw the birth of a younger sister for Tartan! Her name is "Cry-Laugh Tartan" and true to her name, she can cry and laugh. She tickles our imagination. Smiles break out as people start to talk more.

★How to use the series of Tartan dolls effectively

Enabling elderly people and people with dementia to enjoy a meaningful life

It is said that elderly people and people with dementia are enduring boredom, isolation and a feeling of helplessness. Such people also gradually lose their dignity as an adult and member of society when they are forced into a passive

lifestyle by being cared for. In meeting up with Tartan, who closely resembles a real baby, these people can regain positive emotions and behavior such as feelings of affection for the doll and wanting to take care of her. Taking on this role enables them to enjoy a meaningful life. Why don't you make the chance for a wonderful encounter? How about creating an environment in care facilities and in homes to facilitate acceptance of the doll? For example, some ladies are sewing for their babies. Some aged care facilities set up the "Baby Room".

Communication is important! The role of Cry-Laugh Tartan

Tartan doll is a good companion for elderly people who tend to become lonely easily, and the doll can be an excellent communication tool for family members and staffs in aged care facilities. The presence of Tartan doll creates a pleasant atmosphere and those looking after a Tartan doll can share common reminiscences about babies. Younger care-staffs often struggle with a lack of conversation topics with elderly people or with dementia. At times like that, the sound of Cry-Laugh Tartan can enliven the atmosphere, bringing smiles and triggering conversation. Meaningless wanderings will turn to happy walking with baby.

For those who are bedridden or in the final stages of their life, being in bed together with Silent Tartan doll is very comforting and provides them with peaceful mind. We can often see scenes of nursing staff talking in kind tones to such patients and their dolls. In this manner, the Tartan series of dolls can play a role in both Aged Care and Dementia Care situations.

Respecting the individuality and sensitivity of each person

Not all people are suited to Doll Therapy; this point must not be overlooked. Each individual has different experiences and different feelings in regard to babies. Especially for those with dementia, the baby doll can be a real baby to them or, it can sometimes be real and sometimes be a doll.

The individuality and sensitivity of each person must be respected and staffs and family members need to observe what kind of feelings that person is showing at the time. Staff and family members need to show empathy and must remember to be careful in how they treat the doll.

「たあたん」シリーズは、愛する心とやさしいコミュニケーションを広げます。



泣き笑いたあたん

- 手を軽く握ると「泣き声」を、足に触ると「笑い声」を発します。
- 3分ほど放置すると、電池の消費を防ぐためスリープモードに入ります。
- スリープから復活させるためには、お腹にある「ボタン」を押してください。
- 背中の電源スイッチは、通常はONの状態でお使いいただき、長期間使用しない時は、背中の電源スイッチをお切りください。

価格：15,984円(税込)



ヒーリングベイビー たあたん

- 2001年にドールセラピーのために開発された赤ちゃん人形。
- 最もベーシックなセラピー人形です。
- すでに2万体制近く販売され、愛されています。
- 泣き笑いの機能はありませんが、「泣き笑いたあたん」と同じく、表情や重さ、体形、「愛らしさ」や「赤ちゃんらしさ」にこだわりました。

価格：10,800円(税込)

二人の「たあたん」の 共通仕様

- 体重／約1250グラム
- 身長／約47センチ
- ボディ／布製、詰め物によってほどよい柔らかさと重さを感じます
- 手足の露出部／軟性プラスチック
- 手足の関節／可動性があります
- スリーピングアイ／横にすると目を閉じます
- セット内容／人形、ベビーコット、掛け布、枕



「たあたん」と筆者・芹澤隆子

医療・福祉・介護の分野で取材記者として活動する中で、オーストラリアのダイバーショナルセラピー(DT)に出会い、ドールセラピーを知る。日本の高齢者に親しんでいただける赤ちゃん人形を…と自ら香港の人形メーカーに足を運んで、オリジナルのセラピー人形として「ヒーリングベイビーたあたん」を考案、2001年に発売。高齢者介護のほか教材などとしても広く普及している。2016年、ドールセラピーやDTの支援法人でもあるフランスベッド株式会社の「泣き笑いたあたん」の開発に参画。2016年9月には20年にわたるDT活動の集大成ともいえる著書「施設ケアの新発想!オーストラリアのプロメソッド ダイバーショナルセラピー」(三輪書店)を出版。2016年現在、有限会社ウェル・プラネット代表取締役、NPO法人日本ダイバーショナルセラピー協会理事長、オーストラリアDT協会正会員。

※この冊子は、多くの方々にドールセラピーを活用し、楽しんでいただくためにフランスベッド株式会社と有限会社ウェル・プラネットが共同制作したものです。

フランスベッド株式会社

☎0120-083-413

有限会社 ウェル・プラネット

☎06-6882-0360